

## 身近な自然の変化に適切に対応するために

今冬の大雪、それに続く涼しい春とつくば市で5月に発生した竜巻、梅雨明け後の猛暑と長野市内の7月のゲリラ豪雨。異常気象は今年に限らずここ数年さまざまに発生しています。これら個々の異常が単なる偶然なのか、最近の長期的な傾向なのかを断定することは、今はまだ難しいようですが、科学的な気候変動予測では、地球温暖化の影響によって各地で極端な現象が多くなる傾向が指摘されており、このところの身近な異常気象が単なる偶然とは思えません。

このような気候の変化は、身近な自然にも影響を与えています。サクラの開花が早まったり紅葉が遅れるなどの変化は有名ですが、生物間の複雑で密接な関係を考えれば、その他にも多くの変化が起こっていることはほぼ間違いないでしょう。それがどの

ような変化なのかを多くの場所で多くの目で追跡することができないものでしょうか。環境保全研究所で現在取り組みを始めている市民参加型モニタリングはこのような問題意識に基づいています。

自然はこれまでも変化してきました。私たち自身の感性や生活、経済活動なども、自然のその時々のあるように大きく依存して変化してきました。近年の気候変動やその影響による自然の変化にも、私たちはきちんと対応していかなければなりません。市民参加型モニタリング\*がその一助になるよう、現在有効な仕組みづくりを進めています。

\* 研究所HPの「市民参加型モニタリング」ページURL

[http://www.pref.nagano.lg.jp/xseikan/khozen/sizen/coolearth/watchers\\_top.htm](http://www.pref.nagano.lg.jp/xseikan/khozen/sizen/coolearth/watchers_top.htm)

(陸 齊 kanken-shizen@pref.nagano.lg.jp)

## 「せせらぎサイエンス事業」とは

身近な水辺の生き物の観察を通じて地域の水環境を知り、水環境保全意識の高揚を目指すことを目的に平成3年度から水辺における水生生物調査「せせらぎサイエンス事業」の普及に努めてきました。一方、国においては国土交通省と環境省で「全国水生生物調査」として同様の取り組みをしており、長野県で実施された水生生物調査結果も水大気環境課が窓口となり、環境省の登録サイトに登録しています。平成23年度の県内参加者数は29団体延べ1470人の参加でした。

また、長野県では「せせらぎサイエンス事業」での中心的な役割を担う指導者の育成に向けて講習会を実施してきました。今年度は長野市、安曇野市の2か所の会場で市町村や県職員、あるいは水生生物調査に関心のある方々に向けて指導者講習会を行いました。内容は、「全国水生生物調査」で用いるテキストを参考にして行っています。なお本年度の指導者講習会は終了しましたが、例年6月下旬～7月頃に実施しています。

水生生物調査に関心のある方は県のホームページ (<http://www.pref.nagano.lg.jp/kankyo/mizutaiki/mizu/science/seseragi.htm>) を参考にしてください。

(寺澤潤一 kanken-mizu@pref.nagano.lg.jp)



烏川でのせせらぎサイエンス指導者講習会の様子